

# キャベツのセルトレイ育苗について

キャベツの育苗方法では大きく分けて地床育苗とセル成型苗育苗の2通りの方法があり、それぞれ長所・短所があります。今回はセル成型苗での育苗方法について簡単に説明します。



長所

- ・ 播種や定植作業の自動化が可能。
- ・ 小面積で大量の苗を育苗が可能⇒作業効率の省力化。

短所

- ・ 育苗時には頻りに灌水管理が必要。
- ・ 培土やトレイなどの資材費がかかる。
- ・ 同一日の播種定植では地床に比べ、5～7日ほど生育が遅れる。

## 培土の選び方

キャベツ専用培土を選ぶ。もしくは、通常の培土であれば、チッ素含有量の多いものを選ぶ。



## 発芽するまで

培土が乾燥すると発芽が不揃いになりやすいので、乾燥しないよう十分灌水を行う。



## 発芽してから

発芽するまで、発芽温度は15～20℃が望ましいので、風通しの良い涼しい場所に置く。



## 定植前

定植後の高温に慣らすため、定植1週間前からハウス外で育苗する。

## 灌水のポイント

- 夏まきの場合、朝・昼2回の灌水を行い、朝はたっぷり、夕方には表面が乾くように昼からの灌水で調整します。
- 灌水量は、セルの底から水がわずかに流れる程度にします。
- トレイの外側(端)の部分は乾燥しやすく、苗も小さくなりやすいので、灌水量は多めに行います。
- コート種子の場合には、初期の灌水は普通種子より多めに行います。

## 育苗期間中の注意点

- ①培土はN-200mg/l程度を使用し、種子の3倍の厚さになるよう覆土する。
- ②風通しの良い場所を選び、場合によっては扇風機などで風を送る。
- ③余分な水分を排水させるため、30cm以上はトレイの下部に空間を設ける(エアープルーニング)。
- ④定植時の目安は本葉3～4枚程度で、地床育苗よりも若苗での定植を行う。
- ⑤同じトレイでも、内側と外側で苗の生育にばらつきが起こりやすいので、細かい灌水管理を心掛ける。



セルの穴から根が出ないようにする(エアープルーニング)



定植時苗の目安(本葉3～4枚)



同じトレイでも内側と外側で水持ちに差が出る

